

令和6年度ひろしま感性イノベーション協議会運営業務公募型プロポーザル 議事要旨

ひろしま感性イノベーション推進協議会企画運営委員会

令和6年度ひろしま感性イノベーション推進協議会運営業務公募型プロポーザルについて、次のとおり審査した。

1 会議の概要

開催日時	令和6年3月18日（月） 13:30～15:00
開催場所	本館 601 会議室
開催方法	WEB (ZOOM)
出席委員名	A 委員、B 委員、C 委員、D 委員、E 委員
応募事業者	公益財団法人中国地域創造研究センター
議題	令和6年度ひろしま感性イノベーション推進協議会運営業務公募型プロポーザルの審査
担当部署	広島県商工労働局イノベーション推進チーム新産業支援グループ

2 議事要旨

○ 審査基準及び結果等

本協議会は感性工学を活用したものづくりを活性化することにより、高付加価値な製品の創出の促進に取り組んでおり、別表の審査基準に基づいて審査を行った。

その審査結果は次表のとおりであり、最優秀提案者として公益財団法人中国地域創造研究センターを選定した。

審査基準	評価の視点	配点	応募者	評価
			最優秀提案者	
提案内容				
実施方針	○目指す姿は適切か。 ○現状や課題などをふまえ、明確かつ効果的な課題解決方針が記載されているか	60	57	<ul style="list-style-type: none"> ・10年を節目にした方針、指向が明確である。 ・課題解決の取組方法を具体的に提示できている。 ・感性に訴えるものづくりへの手順の確立というテーマは、本協議会の目指す方向性とよく一致している。
普及啓発 人材育成	○新規会員企業の増加が見込める内容になっているか。 ○ワークショップは、企業が感性工学等を活用したものづくりに自社で取り組むために、必要な知識を習得し、実践する意欲を高められる提案となっているか。 ○企業向け手引きについて、事務局との検討が進むスケジュールとなっているか。	100	80	<ul style="list-style-type: none"> ・新規会員増に期待が持てる。各商工会議所への直接訪問は、有益だと思うが、チラシ同封では、なかなか届かないと感じる。 ・新規会員企業増加のための取組が弱く感じる。
企業内展開支援	○十数件の事業化・着手が実現できる計画や体制となっているか。 ○プロジェクトチームの支援により、3件の成功事例の創出が期待できる内容になっているか。	100	70	<ul style="list-style-type: none"> ・体制は良いと思う。まだ企業側の意思決定が若干怪しい会社があり、温度差があるように感じる。努力が必要。 ・十分な支援体制が組まれている。
会員企業交流会又は 成果発表会	○企業同士の交流に繋がる内容になっているか ○開催規模や集客に向けた取組は具体的で適切かどうか。	100	60	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会では工夫を入れ、多くの情報交換ができる場にしてほしい。 ・集客の工夫を感じる。対面でのワークショップになると思われるため、近年よりは交流を進めやすいと思うが、さらに交流を進める企画・介入があってもよい。 ・成果発表会が、文字通り成果発表がメインになっており、企業間交流に繋がるような仕掛けが弱い。 ・企業間連携、共有、この10年間の総括とその共有もしっかり実施されるとよい。
実施能力				
実施体制	○円滑に業務が遂行できる体制となっているか。 ○業務従事者は十分なスキルを有しているか。 ○類似業務の実績を有しているか。	60	51	<ul style="list-style-type: none"> ・体制、スキル、実績とも良い。
実績・強み	○感性工学に関連する独自のネットワークを有しているか。その他、提案者独自の優位性・特長があるか。	40	38	<ul style="list-style-type: none"> ・8機関連携による支援が期待できる。
実施スケジュール	○実施スケジュールは計画的で実現可能なものか。	40	36	<ul style="list-style-type: none"> ・無理なく実現できるスケジュールである。

<p style="text-align: center;">合 計 点 数</p>	<p style="text-align: center;">500</p>	<p style="text-align: center;">392</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために、細かい支援計画が立てられており、良い製品化事例が創出される可能性が高い。 ・10年の集大成、次の10年に向けて、成果の公表について、積み増しをした方が良い。 ・新年度の計画案について、総じて良いと考える。感性を重視するモノづくり、情報発信が指向されるなか、感性工学を活かした活動、根幹にした実働、とはどういうものか正しく理解してもらおうと共に、感じて気づかせる企画になればと思う。 ・10年の総括をしっかりとされるとともに、今後は更なる感性価値の裾野拡大に向けて努めてほしい。 ・感性に訴えるものづくりへの手順確立、というテーマのもの、企業向け手引きの作成、成果発表会、WSの開催をメインとしてよく考えられた提案書であり、適切な実施体制、スケジュールである。 <p>ただし、新規会員の増加に資する取組は少なく、また企業同士の交流に繋がる取組も弱い。</p>
--	--	--	--

※本結果は、5名の委員の合計点によるものである。